



鈴鹿の古い街のええしの娘、かいていて育ちのよさが
チラチラとよく。こども劇場で人形つかいをする。
京子嬢さんと呼ばれたのが……

JRP入会の感想集

ホンネをのぞかせた にくい文ばかり

アイシクン 自称も他称もアイシクンの中村愛之さん

「たかがボタンを押すだけのことや」けど。わしに「たのむんな」と言うてくれる。けど出来上がったもの見て、「なんや！ えらそうにしとあけど、誰が撮っても いっしょやないか」なんて言われとおないし。ハジや、ほんなんオトコのハジや思って、他人とは変わったように撮った人やけど、そんなんではゴマカシがさかんようになってくるんやあかん。

ほんな時間あったら寝とおわ。撮って焼いて……と。写真やどきほんま金かかるドラフやんか。ほれでメン喰うわけやないのに。と思ひながら 気いついたら 高いもん におてしもったんや。

「わし、ほんなんよおせんや」と言っても、まあまあゴケンソをと、カメラにそそがれたアツイマナザンを感じながら、どや！ わしのニコン……なんて心の中で思っても、いつかサムザムした風が吹くんや。あれ撮って、これたの毛は、と声がかかるんは、みんなカメラのせいやったんや。けど、わし、人がええから、ついついたのまれとったんや。

くさいもんフタの話しよ、むつかしいけど 文え問題やなあと思ひ、さけて通れんような気もするし、カッパの顔もええ。

夕焼けこやけの「洋輔」ならしとったけど、誰が言ったかXX XXの「洋介」は知らやった。けどまた一人ソクイにアタイするヨースケが出来た。と自分でもフケのわからん秘得をして感激したんや。ほやけど、どっちも酒好きや。わし酒はあかんのや。酒のつき合ひだけはようせんや。

今までは「まあええやろ」と スッコラキンと押しとったボタンを、「よし！」と ガキギキーンと押したいし、何がええんか、何があかんのか、ほんなことわからんや。ほんなんわかってくるんかな。

そあいえば、わかったような顔が ならんじつし、あんなふうな顔つきくらいには、ならんあかんののなあと思ひたり。あれくらいの請釈が言えるってことは、ムムッ、テキル……と考えこんでしまったり。

まあ、なんせ（とここですべてをふりはらって）馬は乗ってみやなわからんし、とひそかにわしの心に決めたんや。例会、ほんな雰囲気あった？

こやつ 余程のアホか 余程のカンか
ン？ キマッテイルッテ？
ウン、オレモ ソクオモウナ

(因みに アイシクンは「広報商勢」の名編集長として有名。)

三重支部には
中央集権的なところがあるワ

ホクはニコニコ顔のミオさん
にたまされて入ってました

人形が言ッテ
オラ知ラネ

私がJRPを知ったのは スミオさんからでした。スミオさんの話といえは JRPのことばかり。

「あもしろいから おいで、若い人もあるよ」といつも聞かされてきました。たまたま友人の松尾さんと(36号で登場)が入ったそうなので、好奇心の強い私めのこと、一緒にのぞきに出かけたのが 始まりでした。写真を見るのが好きだけで、カメラのことなど何も知らない ただのお客様という存在で参加していたのです。

例会といえは、若いう人が、並べてある写真の前へ行って、ジロジロ見て「焼きが悪い」とか「これええな」とか すいぶん偉そうにしているの、この人は どんなの撮ってるんかしらと思ひたり。(この人の作品 後で見せて貰ったけど、第一印象とは違った すてきな写真だったの、びっくりしたのですが)それから、中心になって例会を進めている人が、実は入会して 日が浅い人だったので 驚いたりでした。

そして 一回の写真教室(柳原にて)で、写真の圧力的な量と先生生徒の暖かくかつ優しいやりとり、いいなあ、お客様立場も忘れて 引きこまれてしまいました。

「私も撮ってみたい」(私もとれるかな、でないとこが すうすうしいので、あ)カメラを持っていないことさえ忘れ、私の頭と心は 何かしらわけのわからないもので一杯になっていたのです。

次の週、追い討ちをかけるような「もう入ると思っとるよ」というスミオさんの言葉。「えっ」ということ名簿に名前が載るに至ったのです。

なんとなく流されてしまったとかいうしかない自主性のない私。いつもは流されることの嫌いな私。ところが ちっとも気分が悪くないのです。どうしてなのでしょう。皆さんが親切で、何人の持味を大切にしている集団だからでしょうか。また 全く気取らないざっくばらんな 例会の雰囲気だからでしょうか。或は、偉い人も、偉いからって遠い存在になっていないからでしょうか。それとも 引強なのになんかを感じさせない誘い方があったのでしょうか、言えきれないのです。

集団をより中味の濃いものに、そしてより大きくという皆さんの気持、自分たちの文化を自分たちの手で作りあげるといふ 秘めたる意欲——が伝わったのかも知れません。

私に伝わったのは ほんの一部に過ぎないのかも知れませんが、ほんの一部でもいいから、出し惜しみせず、多くの人にわけてあげて欲しい気持です。

最後に、筆が重い私が言うのも気が引けるのですが、言わせて貰えれば 百万石に載る人が なにか限られているような気がして仕方がありません。

編集長もいろいろ努力されているとは思いますが、伊勢の方でも 私たちとあまり接する機会のない方などに、この百万石を通じて お会いしたいと思うのですが、どうなのでしょう。私たちが伊勢まで例会に出かければ いいのですが、津の例会だけで 精一杯なのです。勝手なことですが、ぜひ いろんな方にご投稿をお願ひしたいと思います。

イヤホンも付けてくれという 編集部からの お便りでしたが、なかなか書けないものですね。もっと JRPに 深入りすれば わかってくるのでしょうか。よく目を開いて 見ることにしよう。

更に3日後に追加された お京さんの便り

- 百万石宛 としとし お便り下さい。ハガキも結構でんわも結構。
- 市美展で市長賞と決まりかけた とたん矢橋。応募規定をはずれておりました。篤也さんのこと。
- ギネネタタム

(前巻)今のJRPは会員が多い、大物が多いということ。伊勢が中心になっていると思うのですが、なにかから中央集権的なところがあって、伊勢の例会に出席してこそ JRPの流れに乗れるという 雰囲気を感じられます。これまた私が目が浅く、中味をよく知らないからでしょうか。それと人物をとった写真がもっとあって欲しいということ。生活の臭いのある 生きた人間の出てくる 作品に触れたい。これは私の個人的希望です。

いや、生きて人間が
群る姿が欲しいのよ!